

令和4（2022）年度 学校と地域の連携推進セミナー② 実施報告

実施日：令和4年6月15日（水）

複雑化、多様化が進む社会の中で、子どもたちにこれからの時代を生き抜く力を育むためには、学校と地域が連携して、子どもたちの成長を支える基盤をつくる必要があります。これらの視点を意識して受講者は講話を聴きました。

第2回は「地域学校協働活動推進員養成研修」との合同開催で、学校と地域の連携を推進するためのつながりづくりなどを学びました。オンライン（Zoom）で実施し、17名の方が参加しました。

○ 講話「今、なぜ地域と学校の連携・協働が求められるのか」

国立教育政策研究所総括研究官 志々田 まなみ 氏

最初に、志々田先生から講話のねらい（「なぜ地域学校協働活動（地域学校協働本部）が求められているのか」、「地域学校協働活動推進員の役割とコーディネートのコツを理解する。」）について話がありました。講話の明確な方向性が示されたことで、受講者はねらいの部分に集中して聴くことができました。

講話の中で、地域と学校の連携に関する中央教育審議会答申や教育基本法の説明があり、受講者は社会的な背景を知ること、地域と学校の連携の必要性について理解を深めました。また、地域学校協働活動推進員の役割と活動のポイントについて話を聴き、地域学校協働活動推進員にどのようなことが求められているのかを考え、理解する機会となりました。

たいへん示唆に富む講話であり、受講者は地域と学校の連携の重要性を理解すると共に、地域学校協働活動についての関心を高めていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・現在の学校が抱える諸問題や社会的な課題となっている教員の「働き方改革」について、学校運営協議会制度を活用することで、解決につながり、または方向性が見えるかもしれないことを理解することができました。
- ・地域コーディネーターだけではできないことも、学校と地域が協力し合うことでできるようになることを学びました。子どもたちと一緒に成長できるよう、地域の方々に「顔」を覚えてもらえるように頑張りたいと思いました。
- ・特別支援学校職員として、地域とどのような連携が良いのかを検討している最中です。今回の研修は学びの多い機会となりました。
- ・今年度から地域コーディネーターとしての活動を始めました。学校と地域の連携の意義を理解することができ、今後の活動に生かしたいと思いました。
- ・1年間の学校行事は決まっているということ、改めて実感しました。学校との話し合いを今まで以上に密にすることを心がけ、学校との関係性の構築に努めたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

